

- 1 題材名 いろいろな音のひびきを楽しもう（9時間）
 教材名 表現（音楽づくり・器楽）「打楽器の音楽」「茶色の小びん」
 鑑賞「管弦楽組曲第2番」から「ポロネーズ」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A表現 (2) 器楽の事項 ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)(ウ)
 (3) 音楽づくりの事項 ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)
 B鑑賞 (1) ア、イ

〔共通事項〕(1) ア 音楽を特徴付けている要素：音色、強弱、音の重なり
 音楽の仕組み：音楽の縦と横との関係
 ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色

(1) 題材観

本題材では、楽器の材質や音の出る仕組みに注目して、音楽をつくったり、聴いたり、演奏したりすることをねらいとしている。3年生では「いろいろな音のひびきをかんとろう」の題材を通して、音の特徴を感じ取って音楽をつくったり、聴いたり、演奏したりした。これを踏まえて、4年生では、音色そのものに目を向け、音楽づくり、鑑賞、器楽合奏を関わらせて学習を進めていくことにより、表現と鑑賞の両方の領域において音色を意識してより豊かな音楽を表現し、伝える姿を目指したい。

(2) 指導観

＜教材について＞

「打楽器の音楽」では、材質による音の特徴を捉えて音の組合せを工夫して音楽をつくったり、その響きの違いを生かしながら自分なりの発想をもって演奏したりする。具体的には、演奏の仕方を表すカードのつなげ方や重ね方に着目して音楽をつくり、さらに音色を工夫して気持ちが伝わる音楽を表現する。

「ポロネーズ」では、3年生で金管楽器の音楽に親しんだ経験を踏まえ、ここでは木管楽器、特にフルートの多様な音色を味わいながら聴く活動を進める。

「茶色の小びん」では、それぞれのパートや曲の特徴を理解して、いろいろな楽器の音が重なる豊かな響きを味わいながら演奏する。

本題材を通して、常時活動としてドラムサークルに取り組む。ドラムサークルでは、全員で円形になり、担当する楽器の様々な音色を使って、即興演奏を楽しむ。活動をしながら、同じ楽器でも打つ場所や持ち方などによって音色が変化することを取り上げ、児童が音色を意識して演奏できるようにしたい。

＜研究の視点との関わり＞

【視点1】〔共通事項〕を支えにした、9年間の学びの連続性を考えた授業づくり

① 学び方の共有

○モデルプランとの関わりについて

今年度のモデルプランでは、表したい思いや意図に合った音色になるように音楽表現を工夫する力の育成に重点を置いている。本題材では3年生までの内容を発展させ、同じ楽器でも音の鳴らし方を工夫することで様々な音色を演奏することができるようになっていく。既習事項を応用し、さらに音色についての意識を高め、より曲にふさわしい表現をしたり、音や響きの美しさを味わいながら聴いたりし、今後の表現や鑑賞の学習に生かしていく。さらに、中学校での合唱をはじめとする学習において音色を意識することで、曲に込められた思いが伝わるような表現をする力を育成したい。

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

- | | |
|------------|---|
| 個別最適な学びとして | <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動としてドラムサークルを行い、自分の気に入った楽器で音色を工夫して演奏する。 ・カードに表された図形を自由に表すことで、様々な音の鳴らし方を試し、同じ楽器でも様々な音色を演奏できることに気付く。 |
| 協働的な学びとして | <ul style="list-style-type: none"> ・3～4人グループに分かれ、様々な音の鳴らし方を試すことで、自らの楽器の鳴らし方に生かす。 ・活動中、必要に応じて音の鳴らし方の工夫を紹介したり、全員で演奏を試したりすることにより、表したい気持ちが伝わるように音色を工夫する。 ・作品を発表し合い、聴き合うことで表したい気持ちに合った音色の工夫ができているか確かめ、振り返ることで、より思いや意図に合った音色を追求する主体的な活動へとつなげる。 |

【視点3】評価の在り方

本時では、気持ちが伝わる音楽をつくるためにグループに分かれて様々な音の鳴らし方を試していく。その中で音色の工夫が見られるものを紹介したり、全員で演奏したりして、音色を意識できるような指導を展開する。また、気持ちが伝わる音楽をつくるために鳴らす場所、鳴らし方、打つもので工夫したことを見取るようにする。

3 題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と、音色などの音楽の構造との関わり、いろいろな音の響きやそれらの組み合わせの特徴や、音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能や、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能、音楽づくりの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、旋律、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもったり、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得たり、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 楽器の材質や音の出る仕組みに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽にみられるいろいろな音の響きに親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 打楽器のいろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いている。 ②技 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。 ③知 音色、音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いている。 ④技 思いや意図に合った表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。 ⑤知 曲想及びその変化と、音色などの音楽の構造との関わりについて気付いている。 ⑥技 思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けて演奏している。 ⑦技 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。	①音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。 ②音色、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 ③音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 ④音色を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	①楽器の音色に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画及び評価計画（9時間扱い）（本時3/9）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童の姿 【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知 技	思	態
◎音色を工夫して、音楽の仕組みを生かした音楽づくりをする。						
第一次	第1時	○楽器の音色を生かして図形を音で表す。 ・常時活動で演奏した担当楽器を使い、音色を生かしてカードに表された図形を自由に音で表す。 ○音色を意識し、音楽づくりで表したい気持ちが伝わるように楽器を選択する。 ・3～4人のグループに分かれ、様々な音の鳴らし方を試しながら音楽づくりで伝えたい様子に合う楽器を決める。 ☆〔音色、強弱〕	○楽器の音色を生かした表現をするために、音の鳴らし方を工夫している演奏を紹介する。 【視点2②】 ・様々な音の鳴らし方を試し、同じ楽器でも様々な音色を演奏できることに気付いている。 ○児童が音色を意識して楽器を選択できるように、活動の様子を観察して音の鳴らし方の工夫やグループの考えを紹介する。 【視点3】 ・様々な音の鳴らし方を試し、音色を意識して伝えたい様子に合う楽器を選んでいる。	①知 （演奏聴取） ②技 （発言・ワークシート）		
	第2時	○音楽づくりの見通しをもつ。 ・範奏を聴き、気持ちが伝わる音楽をつくるためにどのような音のつなげ方や重ね方の工夫ができるか確認する。 ○3～4人のグループに分かれて、気持ちが伝わる音楽をつくる。 ・音のつなげ方や重ね方を工夫し、気持ちが伝わる音楽をつくる。 ☆〔音色、強弱、音楽の縦と横との関係〕	○楽譜を提示し、どのような音のつなげ方や重ね方の工夫ができるか伝える。 ○音のつなげ方や重ね方の工夫を紹介したり、演奏を試すように促したりして、音楽をつくる際に音のつなげ方や重ね方を意識できるように声をかける。 【視点2②】 ・気持ちが伝わる音楽をつくるために、音のつなげ方や重ね方の工夫を試している。	③知 （発言・演奏聴取）	思① （演奏聴取・活動記録）	
	第3時 （本時）	○3～4人のグループに分かれて、気持ちが伝わる音楽をつくる。 ・個人でそれぞれの楽器の音色を工夫する。 ・グループで合わせて練習し、音色を工夫して、気持ちが伝わる音楽をつくる。 ☆〔音色、強弱、音楽の縦と横との関係〕	○様々な音色を試すことができるように、音色の工夫のポイントを掲示する。 【視点3】 ・気持ちが伝わる音楽をつくるために音色を工夫している。		思② （演奏聴取・活動記録）	
	第4時	○各グループがつくった音楽を聴き、音色の工夫を知る。 ・各グループの音楽を聴き合い、音色の工夫を知り、気付いたことをワークシートにまとめる。 ☆〔音色、強弱、音楽の縦と横との関係〕	○各グループの工夫に気付けるように図形楽譜を提示したり、全員で演奏して試したりするように伝える。 【視点2②】 ・それぞれの楽器の音色を生かして音楽をつくっている。	④技 （演奏聴取・活動記録）		

◎一つの楽器から様々な音を出せることを学んだ経験を基に、フルートの様々な音色を味わいながら聴く。				
第二次	第5時	○フルートの音の出る仕組みを知り様々な音色を聴き取る。 ・息の強さによって様々な音色を出していることに気付く。 ☆〔音色〕	○旋律の特徴の違いによって音色を使い分けていることに気付くことができるように、図形楽譜を提示する。 【視点1①】【視点2②】 ・旋律の特徴の違いに気付き、さらにフルートの音色の違いによる曲想の変化や音楽の構成について気付いたことを記述したり、発言したりしている。 ・楽曲の構成を聴き取り、音色の違いによる曲想の変化や、曲全体のよさについて記述したり、伝え合ったりしている。	⑤知 (発言・ワークシート) ③思 (ワークシート)
◎マレットの違いによる音色の違いや旋律の違いによる音色の変化を生かし、パートの特徴に合った音色を考え合奏する。				
第三次	第6時	○4つのパートの特徴を確かめる。 ・楽曲を聴いて曲想を捉え、4つのパートの特徴や役割を確かめる。 ☆〔音色、音の重なり〕	○4つのパートの旋律、リズムや音の重なりの特徴について捉えやすくするために、意見交換しながら比較する。 【視点1①】 ・4つのパートの特徴について気付いたことや感じたことを意見交換している。	⑤知 (発言)
	第7時	○旋律のまとまりや音色に気を付けて主な旋律を演奏する。 ・旋律やリズムの特徴の違い、主な旋律の役割を意識し、息の使い方を考えて音色に気を付けて楽器を演奏する。 ☆〔音色〕	○主な旋律の特徴を捉えやすくするために、階名唱やリズム打ちを繰り返し行う。 【視点1①】 ・主な旋律の特徴や役割を意識し、息の使い方を考えて音色に気を付けて楽器を演奏している。	⑥技 (演奏聴取)
	第8時	○それぞれのパートの特徴を生かす演奏の仕方を考える。 ・自分が担当するパートの特徴を理解し、どのような音色で演奏するか考えワークシートにまとめる。 ☆〔音色〕	○楽器の音色を工夫するにはどうしたらよいか、前時までの内容を踏まえて考えるように促す。 【視点1】 ・それぞれのパートや曲の特徴を理解し、どのような音色で演奏するかについて思いや意図をもっている。	④思 (演奏聴取・ワークシート)
	第9時	○4つのパートを合わせて、合奏する。 ・互いの音を聴き合い、それぞれのパートや曲の特徴を理解してどのような音色で演奏するか全体で考える。 ・それぞれの楽器の音色を生かして4つのパートの音を聴き合いながら合奏する。 ☆〔音色、音の重なり〕	○互いの音を聴き合いながら合奏するために、特定のパートを取り上げ、どのような音色で演奏するとよいか考える時間を設定する。 【視点2②】 ・パートの役割や曲の特徴を理解したり、他のパートの音を意識したりして、音色を工夫して演奏している。 ・音色について学習してきたことを振り返り、今後の学習に生かせると思うことを考えている。	⑦技 (演奏聴取) ⑧態 (発言・ワークシート)

6 本時の指導（3/9）

（1）本時の目標

「はじめ」「中」「終わり」それぞれの部分の気持ちの変化が伝わるように、音色を工夫する。

（2）本時の展開

学習内容 ・ 学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 常時活動を行う。 ・ドラムサークルを行う。 ・音色の工夫のポイントを確認する。 2 本時の目標をつかむ。	○様々な音色で演奏することができるように鳴らし方、鳴らす場所、持ち方を工夫している児童を紹介する。
音色を工夫して、気持ちが伝わる音楽をつくろう。 【音色の工夫のポイント】 ・持ち方 ・ 鳴らす場所 ・ 鳴らし方 3 3～4人のグループに分かれて、音色を工夫する。 ・個人でそれぞれの楽器の音色を工夫する。 ・グループで合わせて練習する。 【予想される児童の反応】 ・元気な感じにしたいから、クラベスをゆるく持って音をひびかせよう。 ・楽しい気持ちが強くなるので、手の平の形を変えてタンブリンを打とう。 ・だんだん気持ちが落ち着いてくるので、カウベルの鳴らす場所を変えよう。 ・3人が一緒に演奏するところなので、鳴らし方を変えて力強い音にしていこう。 ☆〔音色〕 4 他のグループと演奏を聴き合う。 ・音色の工夫が伝わるグループの演奏を聴く。 ・2グループで演奏を聴き合い、どのような音色で演奏されていたか、どのような音色から気持ちの変化が感じられたか、伝え合う。 ・より気持ちが伝わるように音色を工夫し、必要に応じてもう一度聴き合って確かめる。 ☆〔音色、強弱、音楽の縦と横との関係〕	
○様々な音色を演奏することができるように音色の工夫のポイントを掲示する。 ○気持ちが伝わる音楽になっているか意識するように声を掛ける。 ○音色の違いが感じられるグループの演奏を紹介する。 ○活動が円滑に進むように、聴き合いの手順を示し、視覚で確認できるようにする。 ○どのような言葉で伝えたらよいか迷っている児童には、掲示物を参考にしてよいことを伝える。 ○自分の楽器と友達の楽器との関わりや重なりを生かして演奏の仕方をさらに工夫するように促す。 ・「はじめ」「中」「終わり」での気持ちの動きが伝わるように音色を工夫している。 【視点2②】 ◇音色、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(思考・判断・表現) 〈演奏聴取・活動記録〉	

5 振り返りをする。

- 気持ちが伝わる音楽にするためにどのような音色の工夫をしたかまとめるように伝える。
 - ワークシートに記入することが苦手な児童には記入例を示し、参考にしてよいことを伝える。
- 【視点3】